

科目ナンバリング		G-AAA01 51102 LJ31									
授業科目名 <英訳>		自然生態論 Ecological History II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
生態系と人間との関わり合いを、理論と研究方法論から学ぶ。理論では、生態系における人間、人類の進化と適応、環境と生存・健康といった話題を取り上げる。方法論は、フィールドワークに関わるものが中心である。 参加者がそれぞれのテーマについて調べ、それを分析し、最終的に一つの論文のような形にまとめ上げて、報告するまでの、一連の作業を習得してもらう。											
【到達目標】											
自然科学と人文社会科学を横断した理論と、フィールドワークや統計解析の手法を習得する。これらを通じて、研究者として論文を読んだり書いたりするための技術を身に着ける。											
【授業計画と内容】											
以下のテーマを取り上げ、講義する。学生には論文の輪講や発表も課す。 1．理論編：生態系と人間／人類の進化と適応／環境と生存・健康の関わり 2．方法論編：行動観察／環境調査／健康科学調査／統計学的手法 3．成果公表編：論文執筆方法／研究発表手法 4．現代的課題編：生物多様性と人間／人口増加・気候変動と地域社会／環境保全の倫理											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席・授業中の発表・議論への積極的参加（80％）、レポート（20％）に基づき、総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
【予習】輪講などの課題は事前に読んで、専門用語や外国語の意味を調べてから授業にのぞむこと 【復習】学んだ理論・手法などは、自身の研究に取り入れられるレベルにまで復習し、次回授業とレポートに盛り込むこと											
（その他（オフィスアワー等））											
質問等は、随時メールや研究室で受け付ける。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51103 LJ31									
授業科目名 <英訳>		社会生態論 Environmental Ecology I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ヒトが生物の一種である以上、他の生物を食べて生存しなければならない。一次産業の中でも特に周囲の環境に支配をうける水産業と水産資源・生物に注目し、人間社会の、環境に対する働きかけとその影響を理解することに加えて、人間社会によって規程される資源の持続的利用・保全の様々なありかたを、他の生業とも関連させながら論考する視点を習得させることを目的とする。											
【到達目標】											
ヒトが地球の生態系の一員であることを理解するとともに、ヒトおよびヒトの社会と、生態系やそれを構成する生物・物理・化学等の環境とが相互に密接に関係しあい、その中でヒトの生業も変化し続けていることを理論的に考察できる基礎知識を習得する。そして、ヒトが持続的に生存できる社会について考察する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1～5週の授業、および実習をする予定である。 第1回 授業に関するガイダンス。 第2回 原発事故と水産資源（2011年3月11日、福島第一原発事故が起きた。放射線汚染と水産業の関係について概説する） 第3～5回 世界における漁業と環境（生態資源としての水産物を利用するとき、人間社会や環境にどのような問題が生じ、それらがどのように変容していくのかを概説する。合わせて、重要水産資源の生態学的・生物学的特長等を概説する） 第6～7回 人為と生物社会の対応（地球上で人為の及んでいない場所はない。人為が加わったとき生物はどう対応しているのかを具体例をあげて概説する） 第8回 生物間の関係（すべての生物は他の生物と環境との関わりのなかで存在している。生物間・環境の関わりを、すみわけ現象を例にして概説する） 第9～13回 生物多様性、保全生態・生物学と地域研究（生物多様性や保全生態・生物学が対象とする事例は当該地域の人間社会の様相で大きく意味合いが異なってくる。これらの事例につき具体例をあげながら概説する） 第14～15回 分類学・生物地理学と地域研究（地球は複数の生物地理区に分かれている。人間の特定地域での生業を考える際、在来のみならず外来生物も多様な意味を持つ。これらの事例につき具体例をあげながら概説する）  学習の理解度に応じて変更される場合がある。											
【履修要件】											
特にない。											
----- 社会生態論 (2)へ続く -----											

## 社会生態論 (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

出席，平常点，質疑応答，実習態度など，授業への積極的参加（20点），学期末のレポート（80点）に基づいて評価する．

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学習（予習・復習）等]

- ・シラバスに記載されている授業のトピックスについて，授業前に各自の予習を求める．
- ・授業中に課題を提示し，各自の復習を求める．

### （その他（オフィスアワー等））

四回程度，第2～4時限の科目と連携して，亀岡方面で野外実習を行う予定がある．その際には担当教員から事前にその授業に関する案内を通知する．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51104 LJ31									
授業科目名 <英訳>		社会生態論 Environmental Ecology II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
熱帯生物資源の利用と保全をめぐる問題を、フィールドワークによって考察・分析する力、さらにそれを取りまとめて発表する力を身につけることを目的とします。本年度は、生物資源の管理をテーマに、輪読とレポート作成をおこないます。											
【到達目標】											
海外で臨地調査をおこなうために必要な基礎的な考察力・分析力・発信力を自主的に習得できるようになる。											
【授業計画と内容】											
講義では、関連論文の輪読とレポートの作成をおこないます。 第1回 インTRODクシヨン 第2回～第11回 まずつぎの論文を輪読します。 G. Hardin (1968) 'The tragedy of the commons' Science 162, 1243-1248 D. Feeny, et al. (1990) 'The tragedy of the commons : twenty-two years later', Human Ecology 18-1, 1-19 G. Hardin (1998) 'Extensions of 'The tragedy of the commons' Science 280, 682-683 E. Ostrom, et al.(1999) 'Revisiting the commons: Local Lessons, Global challenges.' Science284, 278-282 T. Dietz, et al.(2003) 'The struggle to govern the commons' Science 302:1907-1912 E. Ostrom (2009) 'A General Framework for Analyzing Sustainability of Social-Ecological Systems' Science 325:419-422 第12回～第14回 前回までの生物資源の管理に関する議論と調査手法をふまえたうえで、受講生各自がそれぞれに関心をもつ分野（農業・林業・漁業など）と調査地域を対象とするテーマを設定してレポートにまとめ、発表します。 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートおよび出席状況により評価し、さらに授業の中での積極的な姿勢も考慮に入れます。											
【教科書】											
授業中に指示します。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介します。											
----- 社会生態論 (2)へ続く -----											

社会生態論 (2)

---

**[授業外学習（予習・復習）等]**

授業初回に配布する資料を予習・復習すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

受講生も担当者もフィールドワークに出かける機会が多いので、まず初回に講義日程について話し合い、調整します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51106 LJ31									
授業科目名 <英訳>		人間生態学 Field Medicine				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。											
【到達目標】											
先人たちや同時代を生きる人々のパイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。											
【授業計画と内容】											
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とパイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席と討論、ならびにレポートによって行う。											
----- 人間生態学 (2)へ続く -----											

## 人間生態学 (2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

坂本龍太 『ブータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974

奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673

### [授業外学習 (予習・復習) 等]

授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関する事について調べたり、自分自身の頭でよく考える。

### (その他 (オフィスアワー等) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51151 SB31									
授業科目名 <英訳>		生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境の特質を検討するための基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
[到達目標]											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA01 51152 SB31										
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment II					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
	配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期		2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語
[授業の概要・目的]												
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境に関する具体的な事例を取りあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。												
[到達目標]												
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。												
[授業計画と内容]												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ												
[履修要件]												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
[成績評価の方法・観点及び達成度]												
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。												
[教科書]												
授業中に指示する												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学習(予習・復習)等]												
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA01 71153 SB31									
授業科目名 <英訳>		生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71154 SB31										
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment IV					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
	配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期		2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語
【授業の概要・目的】												
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。												
【到達目標】												
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。												
【授業計画と内容】												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ												
【履修要件】												
博士予備論文の審査に合格した者。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。												
【教科書】												
授業中に指示する												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学習(予習・復習)等】												
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA01 51202 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域政治論I Politics and Society I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水1	授業 形態		使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
Studying politics in Southeast Asia area from comparative perspective.											
<b>[到達目標]</b>											
Students are expected to understand how to grasp politics in Southeast Asian countries.											
<b>[授業計画と内容]</b>											
There are two textbooks written in Japanese language. One is "hajimete-no-tonan-asia-seiji (Introduction to Southeast Asian Politics)". The other is "kaihatsu seiji wo manabu tameno 61 satsu (Introducing 61 Volumes to Learn Political Development)".											
Students are to be assigned academic books and articles on important topics. The topics include "nationalism", "state-building", "democratization", "competitive authoritarianism", "civil-military relations", "populism", "immigrants and national populism", "Judicialization of politics" and "corruption and anti-corruption".											
<b>[履修要件]</b>											
Students have to be able to read English literature and summarize in Japanese. Students with basic knowledge of "democracy" and "the rule of law" are welcome.											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
attendance 60% reports 20% questions and answers 20%											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する Textbooks are two books written in Japanese language. One is "hajimete-no-tonan-asia-seiji (Introduction to Southeast Asian Politics)". The other is "kaihatsu seiji wo manabu tameno 61 satsu (Introducing 61 Volumes to Learn Political Development)".											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) Students are to be assigned academic books and articles on important topics.											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
Students have to read the assigned materials.											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
Please send me (tamada@asafas.kyoto-u.ac.jp) an E-mail if necessary, getting an appointment.											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51205 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域歴史論 History and Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
日本人の歴史認識をめぐって東アジア諸国の人々とのあいだには依然としてわだかまりが存在している。現在の東南アジア諸国も、かつてさまざまな形態で日本の支配を受け、直接・間接の被害を被った。しかし東南アジア諸国は、東アジア諸国のように一般大衆レベルでも国家レベルでも、被害を訴える声を今のところあまりあげていない（その理由も考察していきたい）。そのため、20世紀前半において日本が東南アジア地域を占領していたこと自体さえ、現在日本国内では正確に認識されているのか疑問がある。東南アジア諸地域に関していかなるテーマを設定し、いかなるディシプリンでもって研究していくにせよ、自分が対象とする地域が、過去に日本とどのような関係をもっていたのか理解しておくことは欠かせない。そのため、この授業では東南アジア各国（各地域）と日本との関係を振り返り、必要に応じてより詳細な研究書にも目を通す。											
<b>【到達目標】</b>											
アジア・太平洋戦争期に、東南アジアの国や地域を日本がどのように統治したか、しようとしたか、各地域の比較を通して、全体像を把握する。さらに、日本の占領について、現在東南アジア各国がどのように語っているかについても、理解する。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
第1回 担当決定、参考文献紹介 第2回 マレーシア 第3回 シンガポール 第4回 インドネシア 第5回 フィリピン 第6回 タイ 第7回 ビルマ 第8回 ベトナム 第9回 泰緬鉄道 第10回 インパール作戦 第11回 南洋 第12回 残留日本兵 第13回 東南アジアで裁判を受けたBC級戦犯（韓国・朝鮮人、台湾人） 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2											
<b>【履修要件】</b>											
第1回目の授業に必ず参加すること。第一回目は欠席するが、登録を希望する人はメールにて事前に連絡してください。											
----- 地域歴史論(2)へ続く -----											

地域歴史論(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

出席状況、担当回の発表のでき、積極的な発言姿勢を考慮する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

担当回でなくとも、資料に各自目を通して授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51206 LJ31									
授業科目名 <英訳>		宗教社会論 Religion and Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本年度は、京大を中心とする東南アジア研究の伝統を継承しながら、現代の我々がそこに何をつけ加えていくべきかを考えることにする。京都大学の東南アジア研究は、これまでユニークな問題提起を数多く行ってきた。宗教論もまたその一部に含まれる。本講義ではその中でも、タイ国に関する学際的研究の成果を読み直すことで、京大の良質な知的伝統の基礎に立った東南アジア宗教論への視座を涵養することをめざす。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東南アジア地域研究にたずさわる上での基本語彙を養う。</li> <li>・ 東南アジア宗教に関する重要論点を理解する。</li> <li>・ 日本と東南アジアとを相互に関連づけながら問題を構成する能力を養う。</li> <li>・ 国内外の基本文献に関する知識、および、継続的に学術論文を読みながら個々の論文の問題点を抽出し討論する能力を養う。</li> <li>・ 先行文献の講読を通じ、それらを土台に自分の論文の問いを構成する訓練を行う。</li> <li>・ 討論術や配付資料づくりなどの発表技術の向上をめざす。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>・ 授業計画は次のとおりである。</p> <p>第1回：ガイダンス  第2回：『タイ仏教入門』  第3回～第9回：『上座部仏教の政治社会学』  第10回～第15回：『タイ国 ひとつの稲作社会 』</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成績評価は 文献講読の分担（50点）、 平素点（出席・討論における発言等。50点）、により行う。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 宗教社会論 (2)へ続く -----											

## 宗教社会論 (2)

---

### [授業外学習（予習・復習）等]

参考文献は授業中に適宜紹介するので、履修者は次回授業時までにそれらに目を通しておくことが求められる。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーについては特に定めない。在室時にはいつ訪ねてきてくれてもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-AAA01 51207 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域関連論 State and Society II (Gender and Society)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>[テーマ：東南アジアにおける家族と社会]東南アジアでも少子高齢化が進行中である一方、国内外の移動はますます顕著になっている。そうした中で生活の根幹をなす家族のr票行はどのように展開しているのか。そもそも家族は社会のなかでどのように理論化され記述されてきたのか、その変化はどのようにとらえられるのか。ここでは、人類学の理論や東南アジア・東アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの過去から現在に至る展開とグローバル化というマクロな視点を研究の動向を追いながら学ぶ。また、現代的な問題として移動労働や高齢化とケアの問題などのかかわりを検討し、家族お n 領域、家族と社会のかかわりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進められる。</p> <p>[Theme : Family and Society in Southeast Asia]In a large part of Southeast Asia, aging of the population has become a recognized issue. In the meantime, there is increasing mobility both domestic and international. How are these processes affecting the realm of the family which constitute the foundation of everyday life? How has the family been described and theorized within society to begin with, and how is this evolving in the face of current changes? This class will consider both anthropological theories, micro-level ethnographic perspectives especially in Southeast and East Asia on the one hand, as well as the institutional and ideological deelopments on the macro level from past to present, following the relevant research trends. Moreover, it will address some contemporary issues such as migrant laborj, aging and care, and discuss how the family realm is relevant to the study of the region. There will be both lectures, presentations by class participants, as well as discussion.</p>											
[到達目標]											
<p>1) 家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じる。 2) 家族を論じることを通じて、東南アジア社会について理解し、受講者各自の研究・調査において家族と社会を理解する基盤とする。</p> <p>1) To better understand fundamental issues related to the family and society, and be able to discuss these from a comparative perspective. 2) To increase understanding of the characteristics and current trends in Southeast Asian society in preparation for the participant's own research.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>I 授業の説明等 II 家族をめぐる人類学の議論 III ジェンダーと家族 IV 東南アジアの家族とつながり V 民族誌で読む東南アジアの家族と社会 VI 東南アジアの家族の制度と国家 VII 移動と家族・高齢化とケアなど</p> <p>I Introduction to the class II Anthropological discussion of the family</p>											
----- 地域関連論 (2)へ続く -----											

## 地域相関論 (2)

- III Gender and family  
IV Family and relatedness in Southeast Asia  
V Reading ethnographies on Southeast Asian family and society  
VI The family as institution and state in Southeast Asia  
VII Migration and family, intercultural marriage, care etc.

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業への参加・発表・期末レポート  
Participation in class, presentation  
Final paper

### 【教科書】

授業中に指示する  
授業は、2回ずつ7区分するが、区分ごとにテキストを配布する。  
Introduced during class.  
The semester will be divided in seven clusters of two weeks each, and texts will be distributed before each cluster.

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学習(予習・復習)等】

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を(受講者数に応じて)分担で受け持つ。期末レポートでは、授業で扱ったテーマについて、受講者自身の研究関心との関連で論じてもらう。  
Participants will be expected to be prepared to join in discussion based on the reading assignments.  
Depending on the class size, they will be assigned a presentation of the major points of the reading and will be expected to lead the discussion, once or twice depending on the size of the class.  
The final paper will ask the participants to review the themes in relation to their own research interests.

### (その他(オフィスアワー等))

面談時間は随時相談に応じる  
There will be no specific office hours. Students needing a one-on-one meeting are welcome to contact me to set a schedule.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51208 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域相關論 State and Society I (Comparative State Formation)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、比較の視点を踏まえつつ、インドネシア政治に焦点を当てる。1998年に32年間続いたスハルト権威主義体制が崩壊して、民主化・分権化が始まった。この民主化・分権化は東南アジア域内で考えても、また、世界的にみても定着したと考えることができる。それでは、民主化・分権化後、インドネシア政治はどのように変貌してきているのかを本授業では検討したい。具体的トピックとしては、選挙政治、マイノリティの政治、環境の政治など、参加者の関心に沿って選んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>受講生は、東南アジア、とりわけインドネシアの政治変容を理解することができる。民主化後の権威主義体制の継続性、民主化・分権化のインパクト、政治体制と環境問題の関係など、多様な局面での政治的ダイナミズムを理解できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初回はオリエンテーション。第2回目と第3回目は、東南アジア政治の基本的文献の読み込み。第4回目から第10回目は、インドネシア政治（中央、地方）に関する文献の読み込み。第11回目と第12回目は、民主化・分権化の社会や環境へのインパクトに関する文献の読み込み。第13回目から第14回目は、受講生の発表。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業での積極的発言（10点）、最低二回の発表（一回目：40点、二回目：50点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）  Ford, Michelle and Pepinsky, Thomas eds. 『Beyond Oligarchy: Wealth, Power, and Contemporary Indonesian Politics』（Cornell University Press）  Hadiz, Vedi 『Localizing Power in Post-Authoritarian Indonesia: A Southeast Asian Perspective』（Stanford University Press）  本名純 『民主化のパラドックス：インドネシアにみるアジア政治の深層』（岩波書店）  増原綾子 『スハルト体制のインドネシア：個人支配の変容と1998年政変』（東京大学出版会）</p>											
地域相關論 (2)へ続く											

地域相関論 (2)

---

**[授業外学習（予習・復習）等]**

二回目までに、授業ごとに読むべき文献を提示するので、事前に文献を読み込んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51251 SB31										
授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development I					担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子					
	配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期		2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語
【授業の概要・目的】												
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するための、基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。												
【到達目標】												
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。												
【授業計画と内容】												
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。												
【履修要件】												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学習(予習・復習)等】												
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。												
(その他(オフィスアワー等))												
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA01 51252 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
【到達目標】											
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。第1回目の開講時に報告順を決定する。最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71253 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。</p>											
【到達目標】											
<p>博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。          自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。          質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。          第1回目の開講時に報告順を決定する。          最終回には、まとめ(総括)を行う。</p>											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71254 SB31									
授業科目名 <英訳>		地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA01 51309 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア史論 History of Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
東南アジア史のヒストリオグラフィーをめぐる諸問題を考察する。歴史叙述の下敷きとなるメタナラティブを自覚的に問題化する諸論考を検討しながら、新しい歴史像の模索を試みる。											
【到達目標】											
東南アジア研究の成り立ちを理解し、自らの研究も含めて歴史の文脈に位置づけて分析する視角と手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>近年、東南アジア史研究において、これまでの歴史叙述の正当性に対する疑問が提起されている。歴史叙述を検討するにあたり提起されてきた方法論をめぐる理論的議論をたどりつつ、今日東南アジア史研究において古典と目される作品をとりあげて、研究史上の位置づけ・時代的文脈を検討する。受講者は、東南アジア史一般のみならず、個々の研究テーマに応じて、それぞれ研究史上において重要とみなされている作品を、研究が生み出された時代的文脈に位置づけて歴史叙述の観点から分析・紹介し、自らの研究を位置づける作業を行なう。</p> <p>(1) イントロダクション 授業の目的と内容の概括・ガイダンス 以下(2)～(7)について受講者の関心を配慮しつつ各1～3週を充てる。また受講者の関心に応じて適宜テーマを調整する。</p> <p>(2) 「東南アジア」の歴史的成り立ち (3) 「地域研究」と冷戦 (4) 東南アジア研究と華僑華人研究 (5) 植民地主義と自律史 (6) 前近代と近代 (7) 社会科学的手法 (8) まとめ 全体を振り返り歴史的視角と手法について議論する。</p>											
【履修要件】											
歴史研究の方法論、ヒストリオグラフィー、研究史をめぐる諸問題に強い関心があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席とレポート											
----- 東南アジア史論(2)へ続く -----											

## 東南アジア史論(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

毎回事前に配布する文献に目を通してのぞむこと。

### (その他(オフィスアワー等))

主体的な授業参加を希望します。  
オフィス・アワーは特に定めません。随時メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51314 LJ31									
授業科目名 <英訳>		水循環・風土論 Hydrology and Climatology				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
水文学は地球上の水の動態や分布，水質などを対象とした学問であり，水循環や水資源，気候および水災害，環境の持続性なども取り扱う．本授業では，アジアモンスーン地域を中心に，水循環過程や人間活動と水循環の相互作用に関する講義を行う．											
【到達目標】											
水循環や風土に関する重要な研究課題について，自主的に対応できる能力を養う．											
【授業計画と内容】											
第一週 オリエンテーション 第二週から十四週 講義 第十五週 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートの内容と、毎回の授業への出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
<a href="https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/movie_kozan.html">https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/movie_kozan.html</a> (研究紹介として「インドネシアの大規模火災、その問題解決に挑む」という動画を公開しています。)											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業前に予習すべきこととしては，受講生が興味を持つ地域における水問題や気象条件を調べておくこと．											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51316 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア経済論 Economic Approach to Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>東・東南アジア経済に関する研究を進めるにあたって、実証・理論の両面における経済学の方法論をどのように応用できるかを講義し、考える。そのための基本となる知識や方法論を紹介し、また分野の広がりを理解できるような研究展望を提供する。統計パッケージによる計量経済学的な実証分析のトレーニングも行う。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者が東・東南アジアに関するそれぞれのテーマの研究に取り組む際に、経済学的な観点と方法論を主体的に加味して考察が進められるような基本知識の習得を目的とする。計量経済学的な統計分析のノウハウの習得も目的とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>4種類の講義が用意される。どれを行うかは受講者との相談による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講師の専門分野である開発金融論に関わる2つのトピックのいずれかの講義（A. 金融アクセス問題と金融機関の行動、B. 企業システム:所有と企業統治）</li> <li>2. 経済発展と政治経済制度に関する比較研究分野の論文ないしテキストの輪読・討論</li> <li>3. 講師の専門地域であるタイないしミャンマー経済の概説と研究課題について講義・輪読</li> <li>4. 計量経済学的な実証分析の基礎講義と統計パッケージソフトの利用法の指南</li> </ol> <p>いずれについても東・東南アジアを中心に新興国経済についての研究が主な題材となる。受講者ができるべく多くの研究と方法論に触れることができるように努めたい。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への出欠、指定論文討議における貢献、およびタームペーパー											
【教科書】											
全体としては特になし。Reading Assignmentをトピックごと課す。											
【参考書等】											
<p>（参考書） 講義においてトピックごとに示す。</p>											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>指定された論文を事前に読み込んでくることが求められる。論文はトピックごとに適宜指示する。</p> <p>（その他（オフィスアワー等）） 講義内で適宜指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-AAA01 51317 LJ31									
授業科目名 <英訳>		比較農村社会論 Comparative Studies of Rural Societies				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水1	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>生活の場としての地域とそこでの人間活動の諸相（特に家族、生業、宗教）を、地域単位の生態環境や歴史、社会状況が作りあげる個別の特徴・問題と、通地域的な共通の特徴・問題の双方に結びつけて理解し、自分自身の研究関心を立ち上げるための基礎的な方法論について論じます。取り上げる事例は、東南アジアの大陸部を中心とします。</p>											
【到達目標】											
<p>地域でいま立ち上がる問題を、人間生活の多様な形とその変化・将来像についての基礎的な理解の枠組みに位置づけ、フィールドワークにもとづいて考えるという課題を遂行するための能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1～4週にかけて、文化人類学を軸とした地域研究の方法論、家族・生業・宗教からみた東南アジア大陸部の農村社会と文化の多様性、都市と農村のつながりなどに関する講義をおこないます。その後は、受講者とともに、東南アジア大陸部を中心として論文や民族誌を輪読し、内容について議論します。授業ではまた、フィールドワークの方法論について、特に集めた現地の情報を民族誌的記述に練り上げるまでのプロセスについても意見交換します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と年度末のレポート。平常点は、授業での発言と出席状況からなります。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
<p>課題として授業中に指定する書籍と論文については、事前に読んでから授業に臨むようにしてください。</p>											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>授業外での面会については、事前にメール等で連絡をとるようにしてください。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-AAA01 81318 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域研究プロジェクト・デザイン Area Studies Project Designing				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
受講生それぞれの研究プロジェクト設計を補助することを目的とする。											
【到達目標】											
フィールドワークで行うべきことを事前にイメージトレーニングする。											
【授業計画と内容】											
以下に記したようなトピックに関するホームワークの提出とその相互参照に基づく受講者参加型授業を進める。調査前のリサーチ・デザインならびに調査後データの可視化と論文構成のための力を養うことを主眼とし、博士予備論文執筆のための基礎的作業とする。奨学金情報の整理、設問分析、プロポーザル準備や文献探索方法など実効性のあるトレーニングも試みたい。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究タイムテーブルの作成</li> <li>・研究テーマの明確化と文章化</li> <li>・分析単位（空間的・歴史的枠組）の設定と文章化</li> <li>・調査デザイン/論文構成に関するコンセプト・マップの作成</li> <li>・方法論</li> <li>・調査方法</li> <li>・研究史レビュー</li> <li>・リーディング・リスト設計と読解（地域）</li> <li>・リーディング・リスト設計と読解（テーマ）</li> <li>・文献探索方法</li> <li>・奨学金申請のためのプロポーザル・ライティングなど</li> </ul>											
【履修要件】											
地域、分野、トピックを問わない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一連のホームワークの提出と授業への積極的な参加</li> <li>・期末提出物としてのリーディング・リスト（地域とテーマ）</li> </ul>											
【教科書】											
授業中に指示する 適宜指示する。											
【参考書等】											
（参考書） 適宜指示する。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
自分のホームワークを受講生人数分コピーし配布する。											
（その他（オフィスアワー等））											
アポイントメントによるオフィスアワー											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 81319 LJ31									
授業科目名 <英訳>		紛争と平和 Conflict and Peace in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では虐殺について検討する。まず、紛争研究や国際政治学等の基本的な虐殺の理解について学ぶ。その上で、東南アジアを中心とした各地の虐殺とされる集団的な政治的暴力の事例、および、虐殺を防ごうとする国際レジームの発展について、各種文献を読みながら議論する。虐殺の理解と解決に地域研究的なアプローチがどのように役に立つのか、教員を含めて出席者全員で考えたい。											
【到達目標】											
虐殺という言葉で意味される大規模な政治的暴力は歴史上繰り返し起きてきた。他方で、虐殺（Genocide）という用語が生み出されたのは1944年であり、それが国際法上の違法行為となったのは第二次世界大戦後と比較的新しい。これら、現象としての虐殺と、現象を防ぐために発展した概念としての虐殺、両者に焦点を当てながら、各種文献を読み込み、議論することで、地域研究的な地域固有の文脈を踏まえた虐殺発生メカニズムの理解と、虐殺発生を防ぎ、発生した場合にそれを裁く国際的な取り組みが理解できる。授業参加者が関心のある虐殺事例があれば、それを優先的に授業に取り上げることも考える。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション											
第2回、第3回 政治的暴力の発生メカニズムに関する基礎知識											
第4回、第5回 虐殺をめぐる国際レジームに関する基礎知識											
第6回、第7回 革命と虐殺（カンボジア）											
第8回、第9回 反革命と虐殺（インドネシア）											
第10回、第11回 虐殺と移行期正義問題（ユーゴスラビア、ルワンダ等）											
第11回、第12回 虐殺疑惑と反動（ミャンマー）											
第13回、第14回 レポート発表											
【履修要件】											
原則的にシラバス通りに授業を進める予定だが、受講生の顔ぶれや関心を考慮して、ある程度柔軟に運用する。そのため、出席予定者は第1回に参加するか、欠席の場合は、第2回の授業までにメールか電話で担当教員に出席の意思を伝えること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席点：10%											
----- 紛争と平和(2)へ続く -----											

## 紛争と平和(2)

授業での報告：30%  
授業での討論参加：30%  
最終レポート：30%

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

### [授業外学習(予習・復習)等]

予備知識は必要ないが、事前に課題となる文献を報告者以外も読んでくる必要があるので、授業準備に一定の時間を割かなければならない。

### (その他(オフィスアワー等))

教員との面接を希望するものはアポイントをとること。メールアドレスと研究室の内線番号は以下の通り。

nakayosi@cseas.kyoto-u.ac.jp  
075-753-7837

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		G-AAA01 51320 LB31									
授業科目名 <英訳>		在地の学びかた How to learn of "existing locally"				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 安藤 和雄			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>バングラデシュの農村開発実践研究や日本でのフィールドワークの経験で得られた「在地」という地域の捉え方を、生態文化複合系を理解する一つの「方法論」として、京都市近郊でのフィールド講義を取り入れながら検討するとともに、研究することの原点を受講生とともに野外と教室での参加型講義の中で考えていきます。</p> <p>また、京都府宮津市京都大学連携「一まち一キャンパス事業：「農山村学生実習のための「丹後アジア研修拠点」形成事業との関係で、土日、及び平日で有志の学生の参加を募り宮津市にてフィールドワークを実施する予定。</p>											
【到達目標】											
地域研究におけるフィールドワークの実際の手法についてその基礎や考え方を習得することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
講義室は、前期、金2・（東）在地の学びかた（稲盛記念館3階小会議室II）しかし、平成31年5月24日（金）「在地の学びかた」は稲盛記念館中会議室です。											
<p>講義の予定は、実習を含めて概ね下記のとおりですが、第一回目の講義の時の受講生との話合い、講義の展開の在り方によって、臨機応変に内容などが変わりますので、受講生はこの点を了解しておいてください。また、受講生は、亀岡市でのフィールド講義については、一日中かかりますので、</p> <p>他の講義との兼ね合いで、時間調整してください。野外実習の場合、雨天の時は教室で行います。亀岡での野外実習の場合は、当日の朝の天候によりますので、本講義を受講する予定の方は、必ず、</p> <p>メールアドレスを下記アドレスまでお知らせください。メールによって連絡します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在地の学び方入門（教室：稲盛小会議室）：人間の本能の営みとしての研究について</li> <li>・鴨川における実習講義：さかさまの発想 風景に自分を探る -</li> <li>・亀岡市での実習講義：フィールドワーク入門 自然と農業（安藤他）</li> <li>・鴨川における実習講義：知っていることは知らないことを自覚すること1 - 自分なりの植物分類</li> <li>・亀岡市での実習講義：フィールドワーク入門 - 農業、圃場整備（安藤）</li> <li>・鴨川における実習講義：知っていることは知らないことを自覚すること2 - 自分なりの植物分類</li> <li>・御所から東南アジア研究所までの実習講義：自分の地図づくり</li> <li>・在地の学び方実践編（教室：稲盛小会議室）：世界のニーズ対応型地域研究</li> <li>・在地の学び方実践編（教室：稲盛小会議室）：実践型地域研究</li> <li>・亀岡市での実習講義：フィールドワーク入門 魚類資源と水環境（岩田）</li> <li>・在地の学び方実践編（教室：稲盛小会議室）：日本と海外を結ぶ地域研究の新たな役割</li> <li>・鴨川でのオープン討論：講義を振り返って</li> <li>・愛宕山での実習講義：フィールドワーク入門 山の地形と植物（安藤他）</li> </ul>											
----- 在地の学びかた (2)へ続く -----											

## 在地の学びかた (2)

・ 亀岡市での実習講義(予定)：フィールドワーク入門 農家と語る亀岡の農業 (安藤他)  
土日、及び平日で有志の学生の参加を募り宮津市にてフィールドワークを実施する

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

出席状況とレポート。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学習(予習・復習)等】

日記をつける。  
新聞を読んで関心のかかる情報をストックする。  
メモ帳にこまめにメモをつける。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に定めませんが、授業時間外に話をしたい受講生は、[ando@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:ando@cseas.kyoto-u.ac.jp)  
希望を伝えてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51321 LJ31									
授業科目名 <英訳>		東南アジアの農業・農村 Nature and Agriculture in Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>東南アジアの農業・農村を理解するために本講義では、生態史の観点から考えます。生態史を理解するには、東南アジアの自然のメカニズムとその変化（自然史）を理解するとともに、東南アジアの人びとの歴史を知る必要があります。本講義では、生態史研究における基本的な考え方とそれに関連した研究手法について学んだのち、実際の研究成果を題材にしながら、自然史と人の行為が織りなす歴史について学びます。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壮大な課題と具体的課題を往還する柔軟な発想を身に着ける</li> <li>・ 生態史理解のための基礎的な研究手法を身につける</li> <li>・ 分析と総合のための思考方法を学ぶ</li> <li>・ 既存研究を活用するための多様な理解力を養う</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
1. ガイダンス 2～4. 生態史研究の基本的な考え方 5～7. 生態史研究の手法 8～10. 文明における生態環境の役割 11～13. 東南アジアの生態史 14. 総合討論											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席、発表、議論への積極的参加等に基づき、総合的に評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業中に指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
講義に関する質問は、メールや研究室で随時対応する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51351 SB31									
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture I					担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	小泉	順子	
							東南アジア地域研究研究所	教授	石川	登	
						東南アジア地域研究研究所	教授	三重野	文晴		
						東南アジア地域研究研究所	教授	安藤	和雄		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	甲山	治		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	小林	知		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	中西	嘉宏		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤	雅之		
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理などを研究する上での、基礎的な問題設定とアプローチの方法に関する演習をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む基礎的な研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめの総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない ゼミの出席者は、積極的に質疑応答に参加するようにしてください。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたレジュメや資料、各自のノートをもとに内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにするよう心がけてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員の個別のオフィスアワーを参考にしてください。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51352 SB31									
授業科目名 <英訳>		総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture II				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子 東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 教授 安藤 和雄 東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関わる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたノートやレジュメ・資料などをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員ごとのオフィスアワーを参照してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71353 SB31									
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture III					担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	小泉	順子	
							東南アジア地域研究研究所	教授	石川	登	
						東南アジア地域研究研究所	教授	三重野	文晴		
						東南アジア地域研究研究所	教授	安藤	和雄		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	甲山	治		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	小林	知		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	中西	嘉宏		
						東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤	雅之		
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、総合的な視点からの問題把握と研究方法についての演習をおこないます。また、博士論文の作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない 授業中に適宜指導します。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたやレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員のオフィスアワーを参照してください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71354 SB31									
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture IV				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	小泉	順子		
	東南アジア地域研究研究所	教授	石川	登							
東南アジア地域研究研究所	教授	三重野	文晴								
東南アジア地域研究研究所	教授	安藤	和雄								
東南アジア地域研究研究所	准教授	甲山	治								
東南アジア地域研究研究所	准教授	小林	知								
東南アジア地域研究研究所	准教授	中西	嘉宏								
東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤	雅之								
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、それを先端的な学術研究の動向に結びつけて発展させるための演習をおこないます。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。											
【到達目標】											
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
授業後は、配布されたレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
各教員のオフィスアワーを参考にしてください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 61801 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
【到達目標】											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		G-AAA01 71802 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71803 GB31									
授業科目名 <英訳>		東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 51804 FJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
地域の固有性の理解を深め、研究課題を発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 61805 FB31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
【到達目標】											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう能力を身につける											
【授業計画と内容】											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
【履修要件】											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA01 71806 FB31									
授業科目名 <英訳>		アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
【到達目標】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、研究発表や討論、および研究課題に即した実践活動を行う能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											